

調布まち会だより

No.12
2003 立秋号発行：特定非営利活動法人調布まちづくりの会／郵便振込口座：00150-1-136749
〒182-0022 調布市国領町3-10-14

TEL&FAX:0424-88-4022

http://www.annie.ne.jp/~machikai/ E-mail:machikai@annie.ne.jp


 特定非営利活動法人
 調布まちづくりの会
 2003年度 通常総会開催

規約一部改正議案ほか承認

本会の2003年度通常総会が、6月21日 調布市総合福祉センターの団体室で開催されました。会員52名中、出席者17名、委任状提出者19名でした。議案は、通常総会で最も大切な、昨年度(2002)の事業報告・決算報告と本年度(2003)の事業計画・収支予算、役員改選に加え、定款改正について、活発に審議がおこなわれました。

●本年度の事業計画の年間重点目標で特徴的なのは、策定から5年を経過した調布市都市計画マスタープランの再点検をしようということになったことです。そのほかの年間重点目標は以下3つ「部会活動の充実」「自己財源の確保」「会員の拡大」です。皆様のいろいろな力を結集して一歩いっば、歩いていきましょう。

●定款の改正点は大きく、(甲)本会の事業年度を4～3月のものを10～9月にする。理由：年度を跨いだ発注、支払などを、単年度で明確化し、会計をシンプルにする。(乙)役員任期を1年から2年にする。理由：いままでの状況を踏まえ、毎年度の役員改選の事務手続きをシンプルにする。(丙)理事会の招集などの手続きを簡便

化する。理由：電子メールなども手段の一つに加えて経費と労力の削減を図る、の3点。その他NPO法が改正されたことにもなるものなどです。なお、定款改正については東京都への届け出・縦覧期間をへて正式に承認されるまではこれまでの定款に従っての会運営となります。

●また、本年度の役員は、(50音順敬称略)

【理事】安部宝根、石川初、岩井衛、大久保喜正、大和田清隆、沖崎剛、都築賢二、鉄矢悦朗、森下正信、以上9名、

【監事】藤山三冬、矢嶋崇を選出し閉会しました。その後、7月12日の理事会において規約にのっとり、理事長：大久保喜正、副理事長：森下正信・安部宝根さんを互選しました。(報告：鉄矢)



会員募集中

 特定非営利
 活動法人 調布まちづくりの会

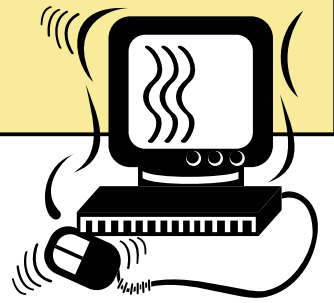
■ 定例会 ■

日 時／毎月第1水曜日 19:00～21:00

場 所／総合福祉会館2階団体室

調布まちづくりの会は、1996年～1998年に市民参加で策定された「住み続けたい緑につつまれるまち調布 調布市都市計画マスタープラン」の原案づくりに取り組んだ、調布まちづくりの会(1997年1月29日発足)に参加したメンバーが集まって、1998年10月、新生「調布まちづくりの会」がスタート。2000年4月には、特定非営利活動法人として新たにスタートし、まち歩きや景観シンポジウムの企画運営などを通して「住み続けたいまち」実現に向け、提言・調査研究・情報提供を行っています。

情報バリアフリー部会



「情報バリアフリー部会」に参加して ～その成果～

紺野 美智子&瑛理

2000年5月、越したばかりの我が家に新しいパソコンがやってきた。初めてのパソコンは未知の世界だった。電源を入れてさわってみるが、何をどこをどうすればどうなるのかまったく分からない。仕事で扱ったことはあるが、全てプログラムされたものをFキーで操作・入力していたに過ぎなかったと思う。これからどうしようかと途方に暮れてしまった。

何故なら、子どものためのパソコンであり、自分に扱えないなら子どもに教えてあげることができないだろう。子どもは、手の親指のみが自由に動かせ、特殊スイッチを使ってパソコンを操作する。その6月はほとんど外泊の練習に明け暮れ、7月から退院となり本格的に一緒に暮らすことになったら、病院と違い毎日パソコンができることにはなった。初めは、ミッキーのソフトを使って遊んでいた。それだけでもハガキやいろいろな用紙を作れて楽しかったけれど、「メールをやったらおもしろいよ」と元担任に進められ10月からメールを始めることになった。それからが大変だった。まず、インターネットに繋ぐことができない。一時間で¥9,800というサービス業者に以来して開通の運びとなった。確か、1.5hで¥15,000ぐらいかかったと思う。これでは、おいそれと頼むこともできない。有料サポートは高過ぎる!! そんな時に、以前、移動サービスでお世話になった大脇さんにパソコンボランティアのお話を聞き、取りあえずメーリングリストに入れてもらった。その頃はパソボラもメーリングリストも未知の用語であったのだが・・・(笑)、とにかく、

メールはとてもおもしろいものなのということが分かり、子どもは夢中になれるものがあった。いろ

いろな人とのメール・コミュニケーションで言葉数は飛躍的に増え、人の輪もひろがったことも大きな成果です。

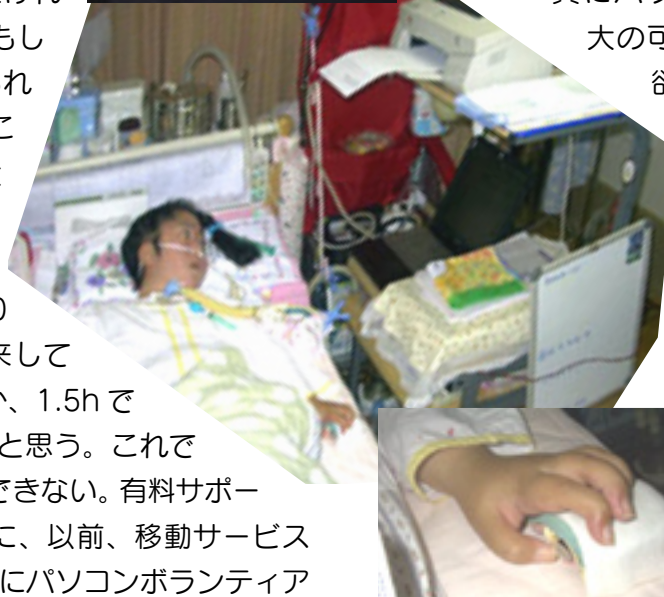
パソコンの基本が分かっていないその頃は、トラブルじゃないことまでがトラブルに思える毎日、参考書を買に行きに行くこともできず、???の世界だった。そんな時に、この部会の前身である「comport」のメーリングリストで、たくさんサポートをしていただいた。毎日が、新しい発見の喜び、パソコンでできるいろんな楽しいことが増えていき、自分で管理するメーリングリスト、ホームページ作りも少しずつやれるようになりました。あれから3年たって、現在メールはもちろん、たとえ出かけられなくても欲しい本もDVDも、スーパーの買い物でもパソコンからできる。銀行振込みもチケット購入も家にいながらにしてできるし、カラオケまで楽しめる便利さを享受できるようになりました。----その蔭に「情報バリアフリー部会」=comportあり、なのです。

真にパソコンは、誰にとっても無限大の可能性を秘めた宝の箱ですね。

欲を言えば、音楽配信などもMacintoshにも広く解放してくれたら、と。いろんなソフトが無い、出るのが遅い、高価である、というのがMacintoshの悩みなのですが・・・。

また、毎月一回のオフ会(茶話会)では、パソコンの新しい情報交換ができるし、この頃では、メンバーの関わる別の会などにも参加したりで、ま

すますその魅力は広がってきています。みなさんも「情報バリアフリー部会」に参加してみませんか?



●情報バリアフリー部会の活動●

毎月第4日曜日に開催している定例茶話会は、今年度に入り偶数月は総合福祉センター2階のボランティア活動室で日曜喫茶夢喰馬喰の喫茶活動で、また、奇数月は自然観察会、パソコンショッブ見学や他地域の施設訪問・交流を行っています。

秋には、ビックサイトや幕張メッセで恒例の“国際福祉機器展”や“ワールドPCエキスポ”などのIT関連の催しが目白押しになりますので、情報収集を兼ねて見学会を予定しています。また、学びの季節に入りますので昨年同様、アクセシブル・ウェブ作成入門講座なども実施していく予定です。

- ・9月の定例茶話会
9月28日午後1時30分から午後4時まで福祉センター2階ボランティア活動室
- ・ワールドPCエキスポ(WPCEXPO)2003見学会
9月17日から20日(実施日調整中)、会場は幕張メッセ
- ・CEATEC Japan 2003 見学会
10月7日から11日(実施日未定)、会場は幕張メッセ
- ・国際福祉機器展見学会(10月定例茶話会)
10月15日から17日(実施日未定)、会場は東京ビックサイト

まちづくり 勝手に Q&A

Q 「地区計画」とは？

A 地域住民が、まちの個性を活かし良いところを守ったり共通のルールをつくるなどしながらまちづくりを地区ごとにすすめるための計画です。

Q 調布でも国分寺産線上や工場跡地に大規模のマンション計画が増加し、まちの景観や環境が大きく変わろうとしています・・・

A このようなときにこそ、自分たちのまちのことを決めていくルール作りが必要になっており、地区計画の活用が今後ますます求められます。

地区計画は、①「地区計画の方針(地区計画の目標や地区の整備・開発及び保全の方針)」と②「地区整備計画(区域内の一部もしくは全部に、道路・公園・広場などの配置や建築物等に関する制限)」によって定められ、調布市都市計画審議会で決定されます。調布市では、地区計画によるまちづくりを進めているため、まちづくりについて協議する「地区協議会」の立ち上げや地区の基礎資料作成や情報提供などの支援をしています。現在、小島町2丁目、国領町2丁目、国領駅南、国領駅北、布田地区、飛田給駅周辺、仙川駅周辺、調布駅周辺の8ヶ所で地区計画の計画決定がされています。

Q 自分たちのまちの将来を考えた都市計画に参加するひとつの手法として地区計画を活用できるということですか。

A はい。地区計画を定めるためには、まず、住民が中心になって今の環境を守るのか、困ったことは何か、現状をどうしたいのかなどについて話しあうことからスタートします。

地区計画の活用方法の例として、①商業拠点地区には、土地の有効利用を図るため敷地規模・高さ容積率の制限、高度利用の推進、外壁や屋根の統一・広告看板の面積制限をして、統一感のある街並みをつくる。②密集した住宅地では、道路幅を広げる、公園などのオープンスペースを増やす、工場とのすみわけ計画なども盛り込むなどがあります。

自分たちのまちをどのようにしたいのか、地権者だけでなく地区住民の提案と合意形成がとても大切です。(安部宝根)

スタッフ 募集

「調布不思議発見」作品 「杜の家」2階に常設展示へ

「調布不思議発見」の作品の中から、調布の面白さ、楽しさを表現している作品を、「杜の家」さんの2階に、常設的に展示することになりました。

作品の選定、展示造作に協力していただける方を求めています。

森下まで連絡下さい。

(電話・FAX 0424-83-9993)

「杜の家」さんの場所は、武蔵野市場の西側の道を北の方に行き、高速のガードを越えてすぐ右に曲がると見つかると思います。

●住所：深大寺元町2-11-6

8月の相互塾例会

講師：武田英子さん

「日米友情の人形交流 ～人形と子どもたちの昭和史～」

日時：平成15年8月24日(日) 午後2時～4時

場所：たづくり 9階 研修室

参加者26人(参加者延べ人数 1070人)

8月例会は調布市の男女共同参画推進係と共催で行い、日米の人形による交流が、第2次世界大戦をも乗り越えて行われていた事を実際に調査された武田英子さんに語っていただきました。

武田英子さんが、昭和48年3月にNHKテレビで放送された番組を見て初めてその存在を知り、また、人形の保管に関わられた金子先生にお会いになって、詳しい話を聞か



7月13日(日)に、アルフレッド・ヒッチコックを行った。「知りすぎていた男」を中心に音楽をストーリーと関連させている映画づくりを見た。またトリックや監督自身の出演しているシーンなども見て、映画の面白さを知る事が出来た。

第6回は、10月12日(日)

「懐かしのミュージカル映画(その1、リチャード・ロジャースとオスカー・ハマースタインⅡ世の

れて膨大な調査が始まった経緯、日本に送られた人形のパスポートの実物をはじめ、双方からの手紙など、貴重な資料もたくさん見せていただき、感動しました。参加者からも当時の見たまを語られ、改めて戦争の理不尽さを感じる事が出来ました。若いお母さんの感想も聞く事が出来、人の繋がりの大切さを改めて知る事が出来ました。

9月以降の相互塾

9月29日(月)：戸田冬樹さん

「湖沼に囲まれた情報社会先進国フィンランドのなぜ? ～sisu魂とスオミの国～」

10月27日(月)：稲葉千穂子さん他

「映画文化の発信地・調布の将来」

11月17日(月)：土方真さん

「近藤勇と新選組」

12月15日(月)：白石奈緒美さん

「お芝居を楽しむ」

1月26日(月)：重岡依里さん

「タウン誌の取材を通して見たわがまち」

おしゃべりサロン「相互塾」が発足して、この6月例会で、**参加者延べ人数が1000人を突破し**、調布市民の中で、定着し始めたと喜んでます。

黄金コンビ)

第7回は、1月25日(日)

第8回は、日時未定(テーマ候補ビビアン・リー、ジェームス・ディーン、など。)

うたごえサロン

「うたごえサロン」は、8月15日の参加者は、お盆で、雨の中にもかかわらず、29人と、多くの方に楽しんでいただけました。世話役の人たちも増え、多くの方によって運営されるようになりました。

【事務局通信】

日本都市計画家協会賞佳作受賞!

8/4、日本都市計画家協会賞佳作受賞の表彰状が届きました。応募総数は74でその内、まち会が応募した「コミュニティまちづくり部門」は25件でした。8/6定例会に持参し紹介しました。(報告：沖崎)

<日本都市計画家協会賞>

まちづくりに関する一連の活動(東京都調布市) / まちづくりコミュニティ部門 NPO法人調布まちづくりの会

<概要>

「まちづくりの会」は、市の都市計画マスタープラン作成のために集まった市民によりつくられ、マスタープランの完成でいったん役割を終えたものの、そこで掲げた理念を実現するために新生組織として1998年から活動を開始。景観やバリアフリー等の部会活動、学習会の開催、市からの受託事業など多彩に活動している。

<選定理由>

全国で多くの都市計画マスタープランが策定されたが、計画・策定段階の市民組織が策定後も継続して活動している例はあまりない。その中で、まちづくりの会は、NPO法人として自立的・継続的に活発に活動し、政策提言、企画、調査等の実績を積み重ねている点を評価する。今後も地域密着型のまちづくりコーディネーター、シンクタンクとしての活躍を期待したい。

【佳作】(賞状)

詳細は <http://www.mmjp.or.jp/jsurp/kakyokaisyo.htm> にあります。



編集後記 / まちづくり勝手にQ&Aを復活。次回は冬号です。(江・高)